第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

アカオネッタイチョウ

Phaethon rubricauda melanorhynchos Gmelin, 1789

川上和人（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　鳥類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：川上和人，2026．アカオネッタイチョウ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 507-511．

Citation: Kawakami, K., 2026. *Phaethon rubricauda melanorhynchos* Gmelin, 1789. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 507-511.

ネッタイチョウ目 Phaethontiformes　ネッタイチョウ科 Phaethontidae

アカオネッタイチョウ

***Phaethon rubricauda melanorhynchos* Gmelin, 1789**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧Ⅱ類（VU）　D1				
基準 A:　－	基準 B:　－	基準 C:　－	基準 D:　VU	基準 E:　－
D1．個体群が極めて小さく、成熟個体数が 1,000 未満と推定される。 【推定根拠】 南硫黄島では 300 個体以上が観察されている。北硫黄島は繁殖規模が南硫黄島よりも小さく、半数とすると 150 個体程度と考えられる。南鳥島は 10 個体程度が生息している。				
評価分科会：　鳥類分科会				

概要

アカオネッタイチョウは小笠原諸島の南鳥島、北硫黄島と南硫黄島で繁殖している。小笠原諸島の西之島では営巣記録が 1 例だけあるが、これは偶発的なものと考えられる。南硫黄島では 50 つがい以上が、北硫黄島では数十つがいが、南鳥島では 3～4 つがいが繁殖しており、近年は繁殖集団サイズに大きな変動は認められていない。北硫黄島では外来植物による営巣環境の改変が、南鳥島では野生化したネコの捕食の影響が心配される。

基礎情報

【形態】

全身がほぼ白色で、長く伸びた 2 枚の赤い中央尾羽が特徴的である。眼の周囲と足が黒色、嘴は赤色で、雌雄同色。全長約 80 cm、翼開長約 110 cm。若鳥では嘴が黒色で、背と翼上面に黒斑があり、中央尾羽が長くない。

【生活史】

岩の隙間、岩や灌木の下の地面に直接 1 卵を産む。抱卵は約 45 日、育雛は約 80 日。トビウオ、イカなどの魚介類を採食する。繁殖は 1 年を通じて記録がある。小笠原諸島の西之島では 1 月に繁殖中の巣が、南鳥島では 7 月に雛の巣立ちが、南硫黄島では 3 月に雛が、7 月に巣内雛が確認されている。これらのことから、小笠原では少なくとも 1 月から 8 月までが繁殖期になっていると考えられる。

【生息環境】

熱帯から亜熱帯の島嶼に疎らなコロニーを形成して繁殖する。北硫黄島、南硫黄島、南鳥島では海岸近くの岩の隙間や下、クサトベラ等の低木の下や外来樹木トクサバモクマオウの下での営巣が確認されている。また北硫黄島、南硫黄島では標高 300 m 以下の崖上などの植生内に出入りする個体が観察され、営巣している可能性が示唆されている。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，草地 【陸域_海岸部】森林，草地，海崖・岩浜・岩礁（磯） 【海域（沿岸）_表層】海面 【海域（外洋）_表層】海面
国土地域区分：	（5）沿岸域，（6）海洋域，（7）島嶼地域

【分布域】

太平洋とインド洋の熱帯から亜熱帯に広く分布する。日本では小笠原諸島の南鳥島、北硫黄島、南硫黄島、西之島で営巣した記録がある。本州以南の各地に稀に飛来し、小笠原群島や八重山諸島ではしばしば観察される。

現在の生息状況

【分布域の現況】

小笠原諸島の南鳥島、北硫黄島、南硫黄島、西之島で繁殖の記録がある。北硫黄島、南硫黄島では戦前から現在まで繁殖が確認されている。南鳥島では戦前に繁殖していたものの、戦後に一時的に確認が途絶え、その後 1980 年代から再び確認されるようになった。西之島では 1981 年に 1 例のみ繁殖が記録されているものの、他には記録がないことから、偶発的な営巣と考えられる。また八重山諸島の仲ノ神島では、以前は毎年少数の飛来が確認されていたが、2000 年代は観察頻度が減少している。

【生息地の現況】

南硫黄島と北硫黄島では、海岸の崩壊地の下部に発達したクサトベラ群落を中心に標高

300 m 以下の範囲で営巣している。海岸部は台風などの影響で高波が生じた時に撹乱されやすいため、繁殖成功度が低下することがある。南鳥島では、滑走路付近のトクサバモクマオウの樹下などで繁殖している。

【個体数の現況】

南硫黄島では、1982 年には 53 つがいの繁殖が確認され、また 2007 年の調査では 50 つがい以上が繁殖していると考えられている。また、2017 年には 2007 年より多くの営巣が確認されている。1982 年には島の周囲で約 200 個体が観察され、また 2017 年には 300 個体以上が観察されている。北硫黄島では数十つがいが繁殖していると考えられている。南鳥島では 1980 年代には少なくとも 3 つがいが、2007 年には 4 つがいが、2022 年には 2 つがいが繁殖していた。これらのことから、アカオネッタイチョウの営巣数は年変動があるものの大きな増減は生じていないと考えられる。

存続を脅かす要因

最大規模の繁殖地である南硫黄島では、波浪による影響で海岸の巣の繁殖が撹乱されやすいと考えられる。北硫黄島の海岸部では近年外来植物シチヘンゲが分布を拡大しており、今後アカオネッタイチョウの営巣環境に影響を与える可能性がある。南鳥島には野生化したネコが生息しており、捕食される危険がある。

要因の区分：	（過去）	捕食（外来種による），自然災害
	（現在）	捕食（外来種による），遷移進行・植生変化/自然遷移，自然災害

特記事項

南鳥島では近年樹上営巣性の海鳥が個体数を増加させている一方で、地上営巣するアカオネッタイチョウでは少数の繁殖に止まり増加に至っていない。これは野生化したネコによる捕食圧によるものの可能性がある。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	アカオネッタイチョウ	*Phaethon rubricauda rothschildi*	EN
第４次 2019：	アカオネッタイチョウ	*Phaethon rubricauda rothschildi*	EN
第４次 2018：	アカオネッタイチョウ	*Phaethon rubricauda rothschildi*	EN
第４次 2017：	アカオネッタイチョウ	*Phaethon rubricauda rothschildi*	EN
第４次 2015：	アカオネッタイチョウ	*Phaethon rubricauda rothschildi*	EN
第４次：	アカオネッタイチョウ	*Phaethon rubricauda rothschildi*	EN
第３次：	アカオネッタイチョウ	*Phaethon rubricauda rothschildi*	EN
第２次：	アカオネッタイチョウ	*Phaethon rubricauda rothschildi*	EN
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【東京都（小笠原諸島）】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【沖縄県】絶滅危惧ⅠB 類(EN)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

鳥獣保護管理法

参考文献

- Bryan, WA., 1903. A monograph of Marcus Island. Occasional Papers, Bishop Museum, 2: 77-126.
- Chiba, H., K. Kawakami, H. Suzuki and K. Horikoshi, 2007. The distribution of seabirds in the Bonin Islands, southern Japan. J. Yamashina Inst. Ornithol., 39: 1-17.
- 堀越宙，2021．UAV を使用した外来植物の北硫黄島内分布記録．小笠原研究，47: 247-255．
- 川上和人，2017．小笠原諸島南鳥島の鳥類相．Strix，33: 131-143．
- 川上和人・鈴木創・堀越宙，2021．2019 年における北硫黄島の鳥類相．小笠原研究，47: 185-200．
- 川上和人・鈴木創・堀越和夫・川口大朗，2018．2017 年における南硫黄島の鳥類相．小笠原研究，44: 217-250．
- 川上和人・鈴木創・千葉勇人・堀越和夫，2008．南硫黄島の鳥類相．小笠原研究，33: 111-127．
- 川上和人・鈴木啓容・原田幸典，2024．小笠原諸島南鳥島における海鳥相の変化．日本鳥学会誌，73: 195-206．
- 小林さやか・加藤克，2022．明治期の南鳥島産鳥類標本の情報復元．山階鳥類学雑誌，54: 103-139．
- 河野裕美・安部直哉・真野徹，1986．仲の神島の海鳥類．山階鳥類研究所研究報告，18: 1-27．
- 河野裕美・水谷晃，2017．アカオネッタイチョウ．沖縄県環境部自然保護課（編）「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物第 3 版−動物編−」，pp. 125-126．沖縄県環境部自然保護課，沖縄県．
- 倉田洋二・金子博，1982．溶岩の島に見る創世記．アニマ，115: 6-12．
- 籾山徳太郎，1930．小笠原諸島並に硫黄列島産の鳥類に就て．日本生物地理学会会報，1: 89-186．
- 塚本洋三，1983．南硫黄島の鳥類．環境庁自然保護局（編）「南硫黄島の自然」，pp. 249-285．日本野生生物研究センター，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Phaethon rubricauda melanorhynchos has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List

5th edition. *Phaethon rubricauda melanorhynchos* is listed as VU under criteria D1. D1. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest, Grassland 【Terrestrial/Freshwater area_Beach】Forest, Grassland, Sea Cliff/Rocky beach/Reef 【Marine area (Coastal area)_Surface water】Sea surface 【Marine area (Open sea)_Surface water】Sea surface
Threat types:	Predation (by alien species), Successional progression/Vegetation change/Natural succession, Natural disasters
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.





執筆者:	川上和人（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）
Author:	Kazuto Kawakami

公表年月：2026 年 3 月